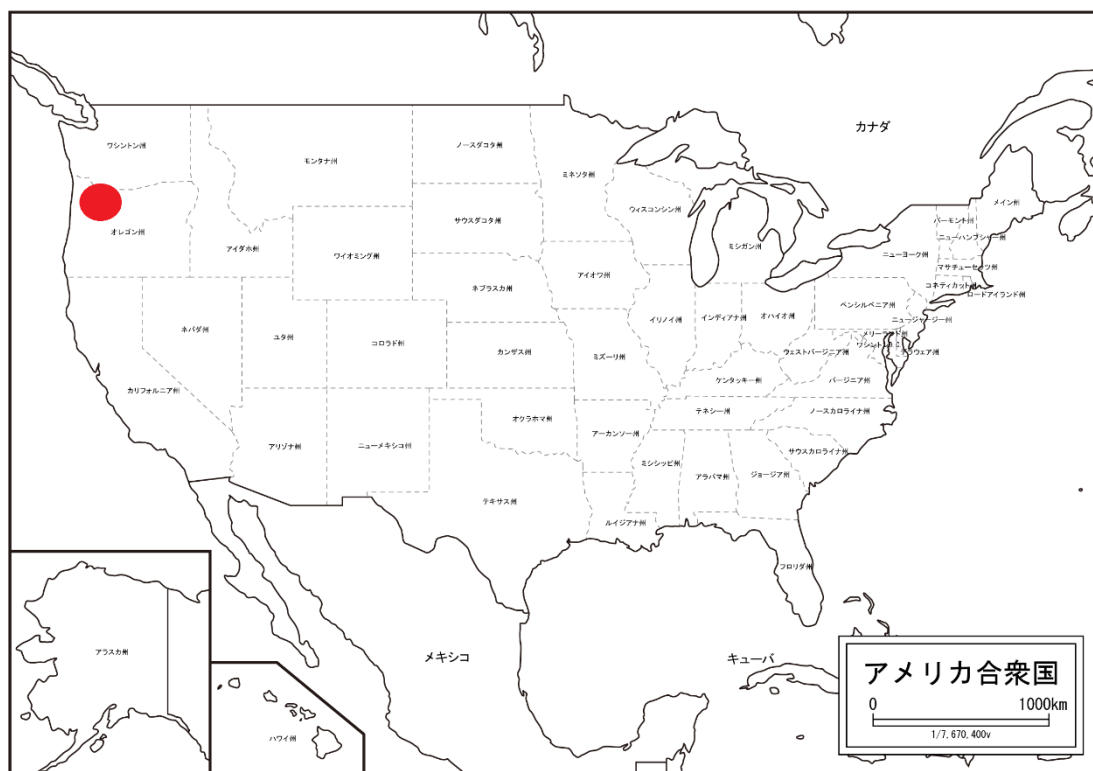


人間と環境が共生する街づくり ～「社会関係資本」が息づくオレゴン州ポートランドに学ぶ～

オレゴン州・ポートランドは、「全米で最も住みたい街」の常連です*1
それは街づくりに市民参加が義務付けられていることと無関係ではないはずです。
日本もポートランドから学ぶ事は多いように思われます。

ポートランド



人と人の繋がり「社会関係資本」

良い街に欠かせない要素は何でしょうか？大きな企業があること？現代的な高層ビルがあること？観光地があること？ハーバード大学ケネディスクール教授であるロバート・パットナム氏はこう分析しています。人間と人間の間のつながり、つまりソーシャルキャピタルが薄れてくると、政治的参加や市民参加の度合いも薄れてくる、と。これは、どんな地域や組織にも通じる話だと思います。

ソーシャルキャピタルというのは、日本語では「社会関係資本」と訳されます。人と人の関係性・信頼感・つながりのことです。物質資本や金融資本よりも、これからは世界中で、「社会関係資本

本」が大切になってくるはずでず。この、人と人の絆ともいべき「社会関係資本」があると、自発的にお互いを手助けする関係や、自然とみんなが社会のルールを守るという空気、誰もがみな安心して自分を発揮する社会、などが自然と醸成されます。

ポートランドは「社会関係資本」を重視し方向転換

さて、ポートランドの話に戻りましょう。国策によりアメリカ中に高速道路ができてきていた 1960 年代に、このポートランドという街は、多くのアメリカの都市とは異なり、この「社会関係資本」を守るという道を選びました。それまでのポートランドは、物流・造船・鉄鋼の街として発展したことを背景に環境汚染が深刻化していましたが、ポートランドの転換のきっかけが、市民が、自分たちの暮らしを守るために立ち上がり、「社会関係資本」を守ったことでした。

でも、これは決して、市民だけの一方的な働きかけのみで成し得た事ではなかったのです。

1967 年に、オレゴン州の知事に就任したトム・マッコール氏は、市民の声を大切にし、自然環境と共生する政策を打ち出しました。そして、彼は、1969 年の政府による高速道路拡張計画に対して、市民による委員会を発足させます。委員会は、高速道路ではなく、公園を作ることを決定し、アメリカではじめて、高速道路撤去を実現しました。これはまさに、**行政と住民が一緒になって、高速道路よりも、「社会関係資本」が醸成される空間である、公園を選んだ結果でした。**

市民の声、そして行政の聴く力

この自治体と市民が協力・協働できるようになった背景には、もちろん市民や、市民で構成された委員会による力もあるのですが、行政による「ファシリテーション(市民の声を聴く力)」も大きな役割を果たしていると、ポートランド州立大学の西芝雅美氏は言います*2。

行政自身、1963 年に'自治体予算法'を可決し、予算編成プロセスに市民参加を義務付けました。また、'上院法 100'という法律で、土地利用計画作成プロセスにも市民参加を義務付けました。さらに、'共同まちづくり課'ともいべき部署ができています。西芝氏は、この法律的な側面だけでなく、行政側の柔軟な姿勢をより踏み込んで研究しています。市民の声を聴くことに対して、行政側が、時間を多く割いています。偏った声ではなく、市民のリアルな声を幅広く集めるために、パソコンがなくアンケートに答えられない人の声も集める工夫をしています。面白い工夫としては、市民の声を募るための移動型カフェのようなことも実施されました。移動式ワゴンの日よけパラソルを広げると、その下に人々が集まってきてくれて日陰でお茶を飲みながら意見をくれるそうです。

そのような市民と自治体の協業の中で、市民からも資金が集まるような事例も生まれています。現パイオニア・スクエアは、もともと、駐車場建設が計画されていました。市民から、「市の真ん中に、高層の駐車場は欲しくない」という反対運動が当然出てきます。1970年代に資金繰りがうまくいかないという問題が出てきた時に、市民がお金を出し合ったのです。資金を出した市民の名前が、今でもパイオニア・スクエアに刻まれています。このパイオニア・スクエアは、今では、市民の憩いと交流の場として使われています。

結びに

1980年代に日本を訪れたマザー・テレサが、日本は物質的に豊かだが、精神的に貧しいことを見抜いていたことは有名な話です。物質資本や金融資本の面では、新興国と比べると豊かな日本ですが、東京一極集中、環境破壊、自殺者が多く、高齢化が進んでいます。一人一人がもって元気で、地方も元気で、精神的に豊かで、人間が共生し、自然環境が大事にされる社会。豊かな人間社会をどう作っていくか、ポートランドから学ぶ事があると思われました。

まとめ

- ・良い街づくりには、社会関係資本(ソーシャルキャピタル)が育つ必要があり、人々が集う場・空間が大事。
- ・ポートランドでは、社会関係資本が息づく街づくりが1960年代からされてきた
- ・ポートランドでは、行政も市民もみんなが参加して町を作っていく仕組みがある。
- ・市民からの一方通行の働きかけでなく、法的な整備を背景に、行政の人が「聴く力」「広く聴くための工夫」というスキルを身に付けていった。
- ・パラソル付の移動式カフェを出し、パラソルの下で市民にお茶を飲みながら話してもらうなど面白い工夫も。
- ・法的整備、市民の働きかけや参加、行政の姿勢、そんな多方向の仕組みは日本も見習えるであろう。

- *1 Ranked as No.1 -America's 10 Best Cities for 2013,
ranked as No.2 -2019 Data pulled from the U.S. Census Bureau's American FactFinder, Yelp, and Zillow to find out which cities are the best for young, growing families,
and introduced as American's most sustainable cities in 2019

- *2 ポートランド州立大学行政大学院行政学部長の西芝雅美氏 「日米の行政と市民参加～米国オレゴン州にみる市民意識～」

https://www.pdx.edu/japan-gov-training/sites/www.pdx.edu.japan-gov-training/files/Nishishiba%20lecture_transcript.pdf

- 参考文献:愛知東邦大学 岡部 一明氏「ポートランド・モデル : 市民参加と自治」
https://aichi-toho.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=166&file_id=21&file_no=1